

カリキュラム・マップに基づいた教育課程の検証結果（今後の対応）

(別紙3)

No.	学科	検証時期	該当科目	課題・検討内容	調整が必要な部署	スケジュール	対応結果(経過)	対応
1	一般教育	R5.前期	「生物学」(全学科・1年前期)	「生物学」(全学科・1年前期)については、現在同時に開講されている科目におけることも学科学生の履修が偏っていることから、時間割の調整やシラバスの修正などを検討していく。	担当教員(非常勤講師)との調整が必要	R6年度のシラバス作成時に担当教員にシラバス内容の修正を提案	シラバス内の「学生へのメッセージ」欄にここでも学科の学生に向けたメッセージを追加していただいた。	○
2	一般教育	R5.前期		科目名称について、授業の内容を反映しているかを検証し、必要に応じて、学生が理解しやすいワードを用いた名称変更を検討していく。	科目によっては非常勤講師との調整が必要となる可能性がある。	R5年度末の学科会議までに検討が必要な科目をリストアップ R6年度の学科会議で科目名変更について検討	検討の結果、下記の通り科目名称の変更を提案し、教授会で承認された。 「情報と生活」→「情報・メディアの法と倫理」	○
3	歯科	R5.前期	・薬理学(それと連動して歯科薬理学は、薬理学を履修後に学ぶべきである)	薬理学は、基本的な身体の仕組みと疾患時の身体の変化の知識を事前に学ぶ必要がある。1年前期の開講は早すぎるのではないかと。		新しいカリキュラムの検証と並行して、R6年度の学科会議にて継続して検討	現行の3年制教育では難しいと考えられるが、調整を検討中。	●
4	社福専攻	R5.前期	ソーシャルワーク実習 ソーシャルワーク実習指導	ソーシャルワーク実習の実習期間の延長に伴い、事前事後の指導と実習との連動や各実習の適切な期間設定が難しくなった。	実習施設や機関との調整が必要	新年度に向けた実習指導体制を話し合う1月の合同実習委員会にて話し合いを始める。		●
5	社福専攻	R5.前期	社会保障論 地域福祉と包括的支援体制	科目の開講時期及び期間の適切性について課題がある。	教務委員会において審議が必要	社会福祉専攻の教務委員と来年度、継続的な話し合いを進める。		●
6	社福専攻	R5.前期		ソーシャルワークと保育学と両方を学ぶ意義を理解していない非常勤講師にディプロマ・ポリシーの説明が必要である。	専攻及び学科に対し報告	R6年度の授業開始までに説明資料をまとめ非常勤講師に配布する。	ディプロマ・ポリシーの説明資料は非常勤講師に配布した。	○
7	介護専攻	R5.前期	・認知症の理解Ⅰ ・認知症の理解Ⅱ	・科目群「こころとからだのしくみ」において、科目内容の重複が確認された。	—	(R5)12月の介護福祉専攻教育検討会で検討する。	・検討の結果、両科目の授業進度を見直すとともに、重複する内容のねらいを確認し、R6年度シラバスに反映させることが決定した。	○
8	介護専攻	R5.前期	・家族福祉論 ・身体のしくみⅠ ・身体のしくみⅡ ・身体のしくみⅢ ・生活支援技術Ⅱ	・科目群「人間関係とコミュニケーション」において、事例検討に必要な既学習の知識定着に欠ける点がみられた。	—	(R5)12月の介護福祉専攻教育検討会で検討する。	・検討の結果、科目間連携を強化することの必要性が確認された。特に、対象科目の内2科目は非常勤講師担当科目であるため、教務委員と連携し、R6年度開講までに定着に欠ける内容の確認と共有を行う。	○

カリキュラム・マップに基づいた教育課程の検証結果（今後の対応）

(別紙3)

No.	学科	検証時期	該当科目	課題・検討内容	調整が必要な部署	スケジュール	対応結果(経過)	対応
9	こども	R5.前期～ R6.後期	・保育実習指導 ・教育実習指導	<ul style="list-style-type: none"> ・実習にあたって、学生に対する指導内容などについて教員同士で整合性の確保に努める必要がある。 ・保育記録の作成(書き方)について、学生が学ぶ時期(今は、時期が遅い)を検討する必要がある。 ・指導計画の書き方について、実習に関する講義で学ぶことが望ましい。実習に関して、連絡協議会の分科会のもと、それぞれの話し合った内容を全体的に共有する場を設ける必要がある(実習記録の作成にあたって、「鉛筆での作成」「パソコンでの作成」などが協議会(教育実習)にて挙げられていた)。 ・教育実習や保育実習など他の科目と連携させながら、事務的な手続きなどを行う際に学生が困ることがないように改善する必要がある。 	・社会福祉学科との情報共有が必要	<ul style="list-style-type: none"> ・定例の学科会議(R6.1月～R7.2月)において、保育実習指導及び教育実習指導の指導内容の共通化を図るための情報交流を行い、整理を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学科会議及び各実習運営委員会で検討を進めている。R6年度初旬に再度検討を行い、R6年度以降のこども学科の実習指導の内容及び指導体制を整理するとともに、社会福祉学科との情報共有も進めていく。社会福祉学科とこども学科の学外実習の時期についてはR7年度以降は合わせることにした。 	○
10	こども	R5.前期	・教育相談	<ul style="list-style-type: none"> ・学生の学びにとって適切な開講時期について検討が必要であると感じている。1年次に開講した方が学生の学びにとっては望ましいのかもしれない。 	・教務委員会等での検討や調整が必要	<ul style="list-style-type: none"> ・(R6)1月から3月にかけての学科会議等で検討していく予定 	<ul style="list-style-type: none"> ・学科会議で検討し、履修要項(教育実習受講資格の科目であることを今後修正すること、現在の受講時期で学びには特に問題ないことが確認された。 	○
11	こども	R5.後期	・卒業研究 ・保育・教職実践演習	<ul style="list-style-type: none"> ・全学科教員で担当する2科目について、主担当(代表者)の固定化がされておらず、授業の運営や成績入力において、その都度確認が必要であった。 	・こども学科会議での検討が必要	<ul style="list-style-type: none"> ・(R6)2月の学科会議にて審議を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・R6年度以降は当面の間、「卒業研究」と「保育・教職実践演習」は教授2名がそれぞれの科目の主担当者(代表者)を務めることとした。 	○
12	一般教育	R6.後期	・データサイエンス入門 ・情報の活用 ・情報・メディアの法と倫理	<ul style="list-style-type: none"> 政府の戦略・政策を踏まえて、具体的に数理・データサイエンス・AIの教育内容をどのように本学における教育課程に位置づけていくか。 		R7年度の学科会議にて検討していく		
13	一般教育	R6.後期	・人間の心理 ・生活と法 ・言語と表現	<ul style="list-style-type: none"> 履修者数の確保と、将来的な非常勤講師への委嘱のしやすさを確保するため、学科・専攻により開講時期が異なる科目(「人間の心理」「生活と法」「言語と表現」)の開講時期を検討する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・担当教員(非常勤講師)、各学科との調整が必要 ・教務委員会等での検討や調整が必要 	<ul style="list-style-type: none"> R7年度以降、学科会議で検討及び担当教員や各学科と調整を行い、調整できた科目については教授会に諮る。 		
12	介護専攻	R6. 後期	人間関係と援助技術	<ul style="list-style-type: none"> ・医療福祉システム論と毎年後期の前半8回・後半8回の順番を入れ替えながら実施しているが、前半8回の際に多くの学科の学生が実習に行き、かつ学科毎に実習の時期が異なるため補講などで複雑な対応が求められる。 	・全学科での調整が必要	<ul style="list-style-type: none"> 介護福祉専攻の分については、令和7年度介護実習運営委員会で検討する。 		

カリキュラム・マップに基づいた教育課程の検証結果（今後の対応）

(別紙3)

No.	学科	検証時期	該当科目	課題・検討内容	調整が必要な部署	スケジュール	対応結果(経過)	対応
13	介護専攻	R6. 後期	障害とコミュニケーション技法	・科目の特性からコミュニケーション I との開講時期や生活支援技術への位置づけについて調整が求められる。	—	令和7年度介護実習教育検討会で検討する。		
14	介護専攻	R6. 後期	介護レクリエーションⅢ	・受講者数が少なく学習効果が低いため、事前に受講者数を調整する等の対応が求められる。	—	令和7年度介護実習教育検討会で検討する。		

○対応完了 △一部対応済 ●対応中 ×対応不可能 - 未対応